

令和7年度公共事業評価部会 質問・意見一覧

番号	時期	質問者	事業名	御意見・御質問	回答
1	事前質問	吉田部会長	一般国道286号支倉道路改良事業	本路線は仙山交流を支える県際の主要幹線道路として、また仙台市と山形市をつなぐ高速道路（東北道・山形道）の迂回ルートとしても極めて重要な役割を担っている。村田JCTの前後（東北道か山形道のいずれか）において通行止めが発生した場合の唯一の代替ルートとして機能する。しかし、冬期の積雪時や夏季の大雨時においては、本事業区間が障害（ネック）となり代替ルートとしての機能を十分に果たせないことが度々生じている。この問題が解消されることは、仙山交流と広域交通の安心・安全に大きな効果をもたらすことが期待される。この点を明記すべきではないかと思います。	現道は冬期の積雪や夏期の大雨時において、当該事業区間がネックとなり、代替ルートとしての機能を十分果たせていない状況となっているが、本事業完成により、仙山交流と広域通行の安心・安全に大きな効果をもたらすことが期待される旨を追記します。
2	事前質問	内田委員	一般国道286号支倉道路改良事業	仙台市施工分の進捗状況と完成予定年度をおしえてください。	仙台市施行分について、宮城県と同様に平成28年度から事業着手しており、令和11年度完成を目指して事業を推進していると考えています。 また、仙台市側の進捗状況については、1号橋梁の上部工を施工しており、当県と同程度の進捗状況と伺っています。
3	事前質問	吉田部会長	一般国道286号支倉道路改良事業	B/Cの算出にあたり、コストはリアルタイムで物価上昇を考慮されていていると思いますが、走行時間便益の時間価値は賃金率上昇等の物価変動を今回算出しているB/Cに加味されているのでしょうか。	B/C算出にあたっては、国土交通省で令和7年2月に発表しているマニュアルを用いて算出しており、現時点では最新のマニュアルとなっており、そのマニュアルに反映されている時期までは物価上昇を考慮しています。
4	事前質問	内田委員	一般国道286号支倉道路改良事業	今回、歩道の幅を3.5mとっておりますが、バイパス整備する前後区間の歩道の幅は同様でしょうか。	お見込みのとおりです。
5	事前質問	三戸部委員	一般国道286号支倉道路改良事業	B/Cはわずかでも1を上回っていれば基本的には問題ないという見方でよろしいでしょうか。目安として1.1が望ましい等の基準はあるのでしょうか。今回の1.08という値は十分な余裕を持った値なのか、それとも今後のマニュアル改訂等で、1を下回ることもありえるのでしょうか。それとも現在の値を安定して得られるのでしょうか。	B/Cはあくまで指標の一つであるが、1以上が目安と考えています。 今後、事業費の増額等があればB/Cが1を下回ってしまう可能性はありますが、現時点では今回算出した1.08を維持していくと考えています。
6	事前質問	吉田部会長	出来川総合流域防災事業	江合川水系としての河川整備はどの程度進んでいるのでしょうか。	江合川水系については、出来川のほか田尻川及びその支川についてこれまで河川整備を行っております。現在出来川は資料5(再評価調査)の33頁のとおり下流から順次築堤工事を実施してきております。田尻川本川は平成10年度に概成しており、支川となる百々川は平成28年度に田尻川合流部の百々川排水機場が竣工し、概成しております。支川となる佐賀川は、令和3年度に田尻川合流部の佐賀川水門を供用開始し、現在は上流部の測量設計を進めているところです。
7	事前質問	内田委員	出来川総合流域防災事業	部会説明資料p.10治水経済調査マニュアルの改訂により、農地・農業用施設の被害額は、比率で算定する公共土木・公益施設の被害額から切り分けられて、単位面積当たりの被害額で算定されることになり、そのため費用対効果が著しく増大することになった、という理解でよいでしょうか。また、調査マニュアルが改訂された背景がありましたらおしえてください。	お見込みのとおりです。 国土交通省水管理・国土保全局が公表している治水経済調査マニュアル（案）令和2年4月改定の概要によると「近年の水害における被害実態等を踏まえた被害率等の更新を図る必要がある」ということです。
8	事前質問	内田委員	出来川総合流域防災事業	5ヵ年加速化対策予算(令和3年度～令和7年度)により、事業の進捗が加速化されたかどうか（途中経過でも）評価できるデータがありましたら示してください。	資料5(再評価調査)の34頁「費用対効果分析算定結果」の建設費に記載のとおり、国土強靱化5ヵ年加速化予算について令和3年度以降、特に令和5年度には最大5億円投資しており、事業の加速化につながっています。
9	事前質問	内田委員	出来川総合流域防災事業	現状、徐々に進んでいる工事により、この流域での洪水被害は軽減されているのでしょうか。 また、費用対効果の算出についてですが、事業の進捗状況に応じ、被害想定額が軽減されていくはずだから、軽減された被害想定額の合計で算出しているのでしょうか。	事業については、下流から順次築堤盛土・河道拡幅による河川整備を進めており、河道断面が広がることで治水安全度の向上が見込まれます。 費用対効果としての便益は流域全体で事業着手時点から事業完了後までの総便益を算出したものです。事業完了後に流域全体での総便益が確保され、一連の治水機能が発揮されるものと考えます。
10	事前質問	吉田部会長	洞堀川総合流域防災事業	B/Cが13という非常に高い状況について。B/Cは1以上であれば問題がない、むしろ高ければ高い方が事業効率の観点から望ましいと言えるのか。便益Bが被害想定額を基本に算定されているとすれば、さらに事業費を増やして住民のリスクを軽減すべきではないかという見方もできるのでは。B/Cには適正な水準があるように思いますがいかがでしょうか。特に市街地を流れる河川については、Bに見合ったCを投入すべきではないでしょうか。	流域面積、人口、資産価値等を勘案し、県内の河川整備を進めているところです。引き続き、国土強靱化実施中期計画を積極的に活用し、河川整備を進めて参ります。
11	事前質問	内田委員	洞堀川総合流域防災事業	5ヵ年加速化対策予算(令和3年度～令和7年度)により、事業の進捗が加速化されたかどうか（途中経過でも）評価できるデータがありましたら示してください。	資料5(再評価調査)の49頁「費用対効果分析算定結果」の建設費に記載のとおり、国土強靱化5ヵ年加速化予算について令和3年度以降、約1～2億円投資しており、事業の加速化につながっています。
12	事前質問	内田委員	洞堀川総合流域防災事業	評価調査p.42 予定している親水護岸の整備規模を教えてください。	整備規模については今後地元調整を図り進めて参ります。
13	事前質問	三戸部委員	洞堀川総合流域防災事業	部会説明資料のp.8の事業内容について説明文に誤植があります。「確立」→「確率」	修正します（資料5(再評価調査)のP37及び資料6(部会説明資料)のP8)
14	事前質問	三戸部委員	出来川総合流域防災事業 洞堀川総合流域防災事業	流域治水の考え方により、一級河川と関連する河川の全体計画の見直しが進められている中での本河川の位置付けを示すとわかりやすいのではないかと思います。 また、全体像が見直しが進められる中で、県の計画は現状が最適なのか。それとも、見直しが進む中で、県の計画変更の検討を今後する予定でしょうか。	県河川の位置付けを示すため、上位計画としての国土交通省所管の河川整備基本方針、並びに洞堀川については吉田川における特定都市河川の指定状況について追記しました。 県の計画変更の検討につきましては、今後国土交通省の方針を注視しながら進めてまいります。
15	事前質問	三戸部委員	出来川総合流域防災事業 洞堀川総合流域防災事業	気候変動に対応した河川計画の検討予定があれば教えてください。	近年、水災害が激甚化・頻発化しており、国土交通省では、気候変動に対応した河川計画の見直しについて、全国的に降雨量を1.1倍、流量を1.2倍に見直す方向性が示されております。県の河川については、国土交通省の方針を注視しながら、まずは現計画に基づき河川整備を進めていきたいと考えております。